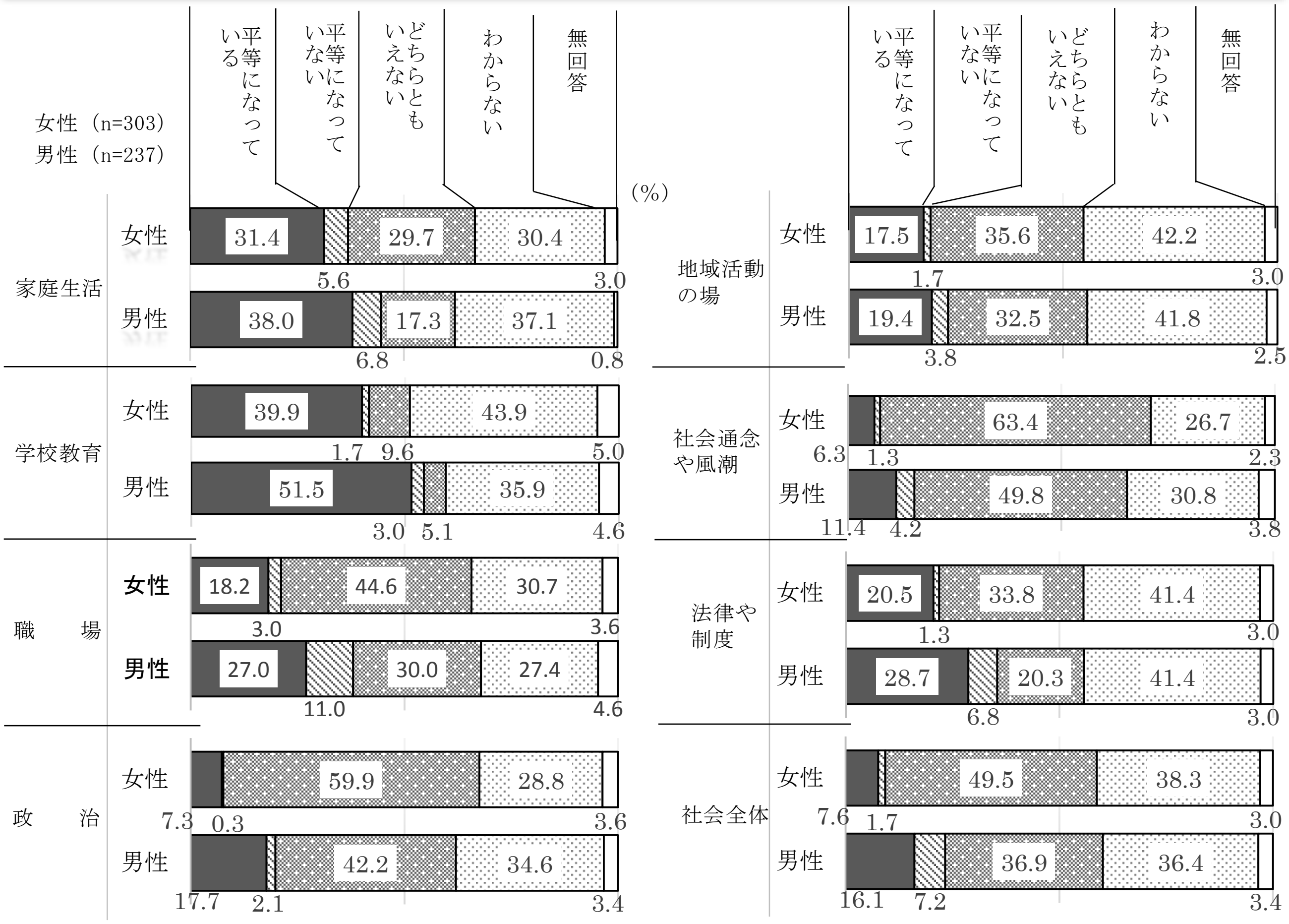
１	男女平等に関する意識について

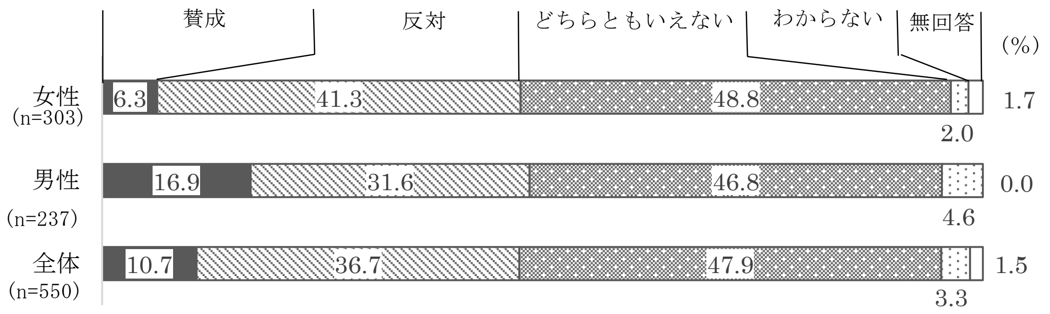
１　男女の地位の平等感

【家庭生活】、【職場】、【法律や制度】、【社会全体】では不平等感が強くなっています。すべての分野において、男性の方が「平等になっている」の回答が高く、男女の平等についての意識の差がうかがえます。

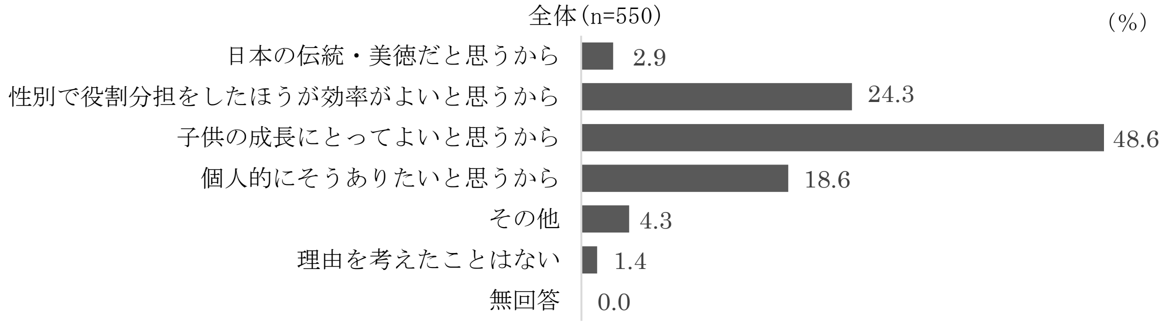


２　性別役割分担意識

＜男は仕事、女は家庭＞という考えは、「反対」は女性で４割に対し、男性では３割となっています。一方、「賛成」の男性は、女性の倍以上となっています。



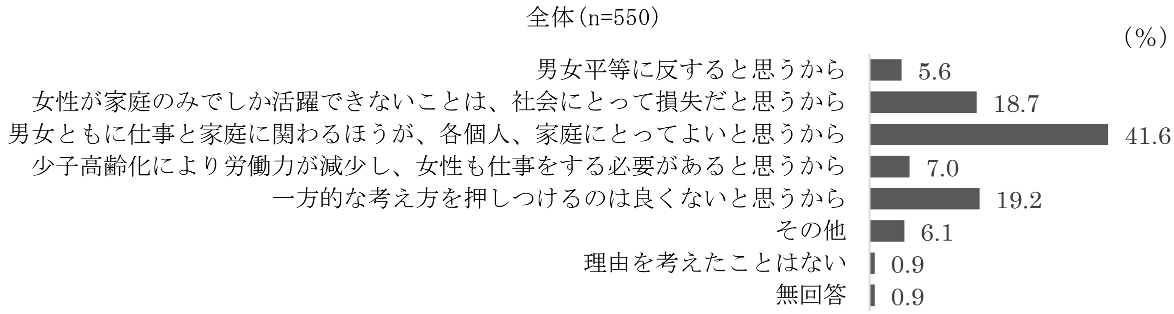
＜賛成の理由＞



【その他】を選択した方の意見

・少子化＜税、社会保障等＞を考えると、女性の社会進出が必ずしも 100％良いとは思えないため（強いて言えば、賛成）。
・仕事をする事はいいと思うけど、家庭を守っての仕事であることを忘れないでほしい。
・男、女としてではなく、個人として各々にふさわしい場所があると思うから。
・主夫希望だから。
・夫婦のどちらかの能力・経済力がある方が働いてやっていけるなら、別に男が専業主夫としてやっても･･･と思うから。

＜反対の理由＞



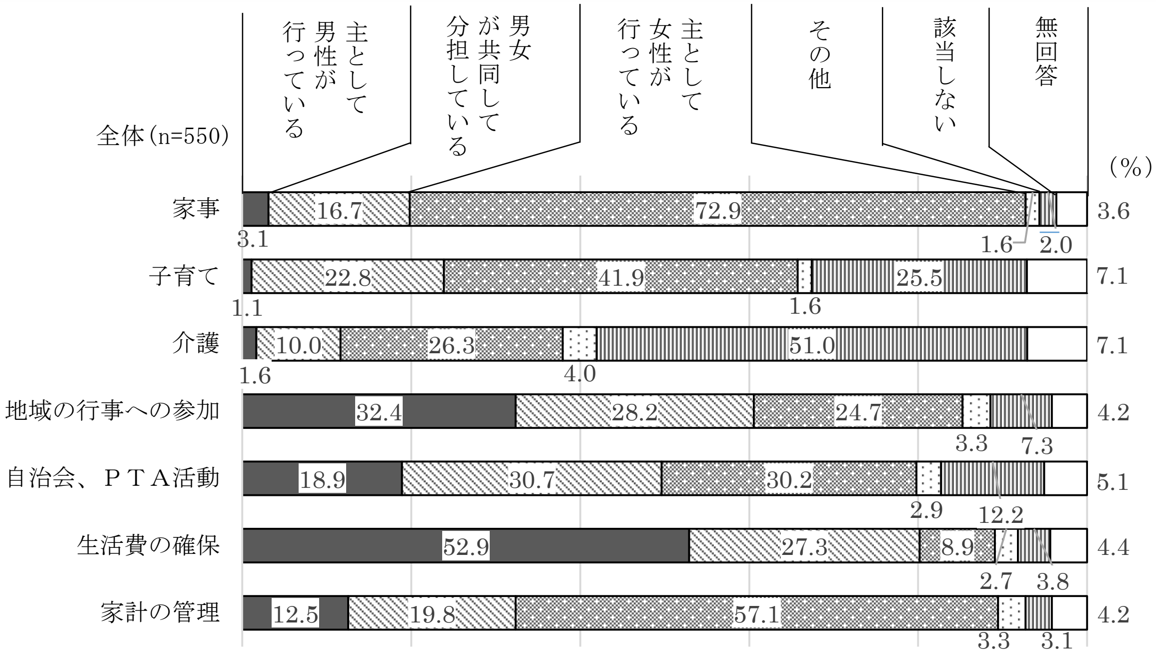
【その他】を選択した方の意見

・自分も家族の為に働きたいと思うから。
・逆でもいいと思うから。
・女だって男と同じぐらい稼げるし、亭主関白とかいう古い考えが嫌だから。
・各々の特性を活かす意味の言葉だと思うが、断定的な考え方だと思う。
・選択肢「一方的な考え方を押しつけるのは良くないと思うから」と似ていますが、各個人が自分の希望に基づいて、選択できると良いと思う。
・仕事と家庭のバランスは、性別によってではなく、各個人の価値観や環境・適性で自由に選べるべきだと思うから。
・その家庭家庭で事情が異なり、特に決めつけることではないため。

２　家庭生活・子育てについて

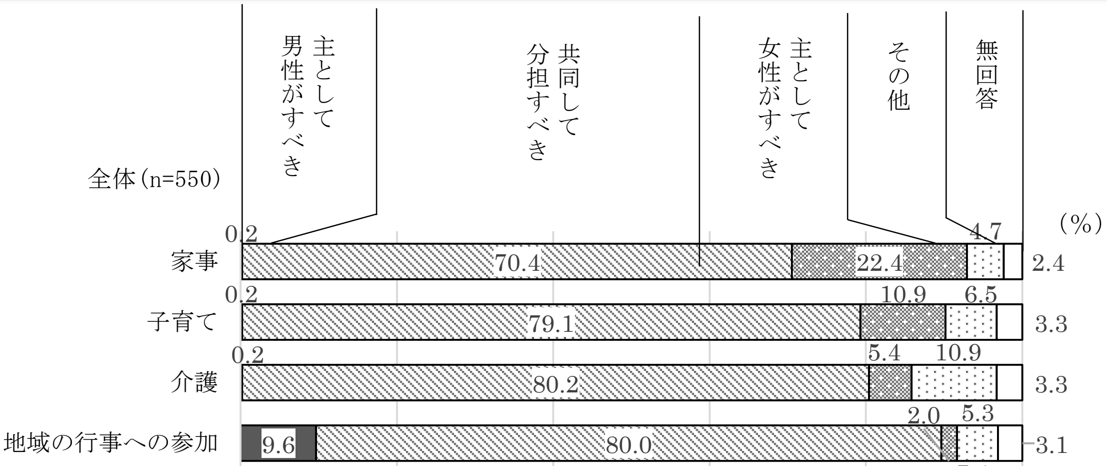
１　家庭生活での役割分担＜現実＞

７つの分野についての家庭における役割分担は【地域活動】【生活費の確保】は男女ともに「主として男性」が高くなっています。【家事】、【子育て】、【介護】、【家計の管理】は、「主として女性」が高くなっています。



２　家庭生活での役割分担＜理想＞

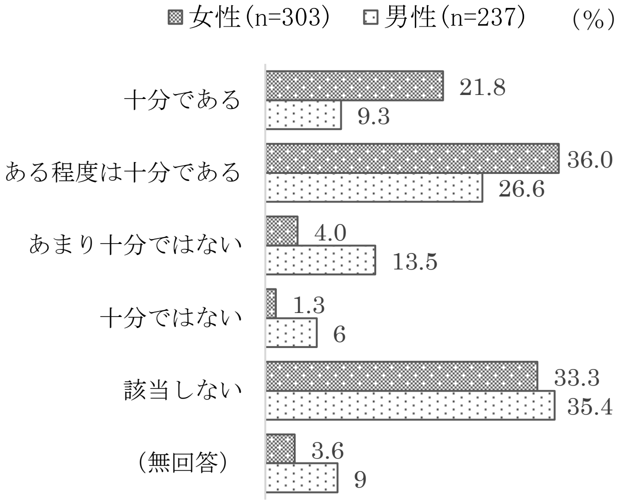
７つの分野において、「共同して分担すべき」が最も高くなっています。



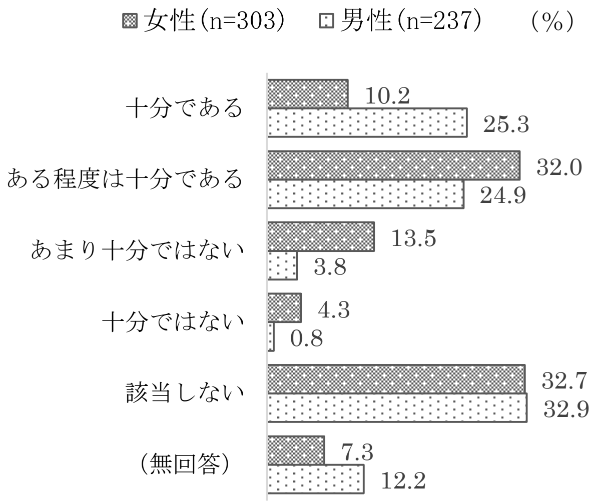
３　子育てへのかかわり

男女とも【本人】【配偶者・パートナー】の子育てのかかわりについて、＜十分である＞＜ある程度は十分である＞の合計が、＜あまり十分ではない＞＜十分ではない＞の合計を上回っています。
子育てへのかかわりが十分でない原因は、男女とも「仕事が忙しすぎるため」が最も高くなっています。

【本人】

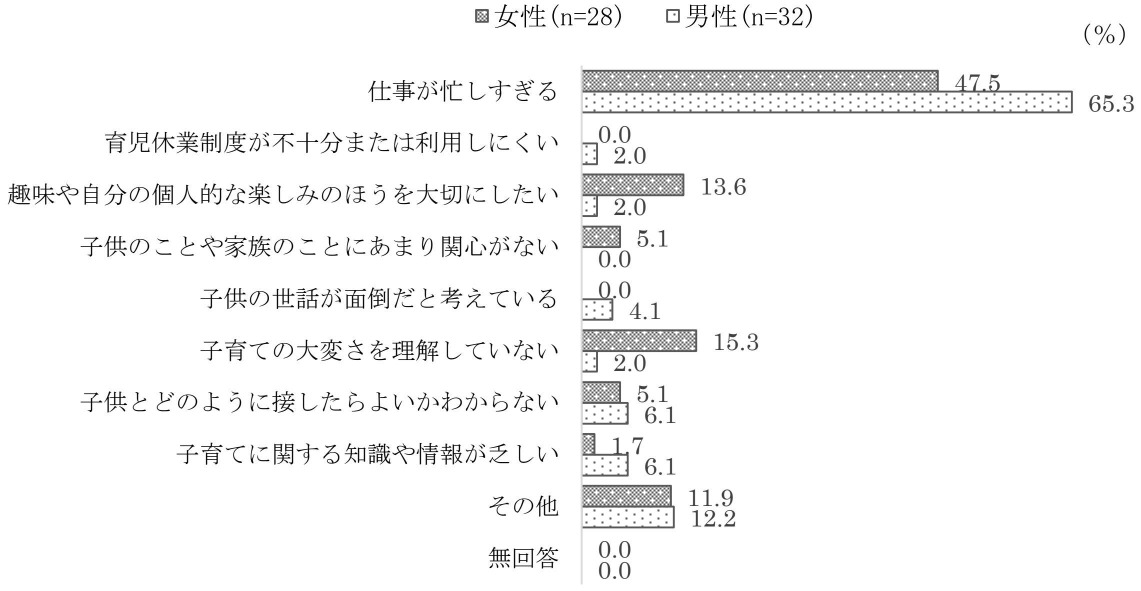


【配偶者・パートナー】



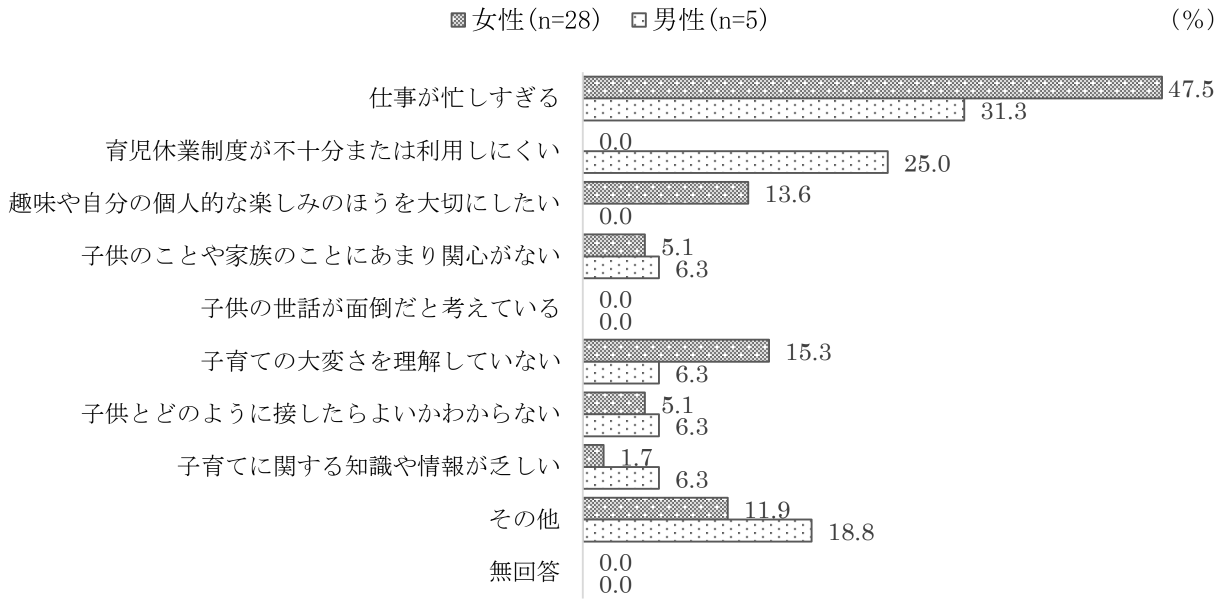
＜子育てへのかかわりが十分でない原因＞

【本人】



【その他】を選択した方の意見
- 地域柄、年寄りの意見が強すぎるため。
- 病気のため。
- 単身赴任中のため。
- 介入したいが、パートナーが不機嫌になるので、頼ってきたときに関わる。
- 子育ては終わり社会人のため、自分たちで生活できればいい。
- 会社が遠く、朝早く帰りが遅かった。土・日曜日は世話をした。
- 幼少期の情操教育は、主に母親が適任と考えるため。

【配偶者・パートナー】



【その他】を選択した方の意見
- 女がやるものだと思っている。
- 育った環境からの考え方。
- 単身赴任中のため。
- 育児は女がするものだと思っているため。
- 妻は保育（公立）で仕事をしていて帰りが遅く、自分の給料だけでは生計を維持することができないため、子供が犠牲になっている。保育の仕事を見直してほしい。
- 実子でないため。